

1. 広島経済大学の教員養成に対する理念、設置の趣旨

(1) 教員養成の理念・構想

広島経済大学の経営母体である学校法人石田学園の建学の精神は、中国の古典、四書五経の中の一つ、『礼記』の中にある「和を以て貴しと為す」である。これは、己に厳しく、他人に寛容に、各々が持てる力を最大限発揮して自分の責任を果たし、互いに助け励ましあいながら、組織全体の調和を図ることを最優先する相互尊重の精神である。

広島経済大学の開学の理想である立学の方針は、中国の古典、四書の一つ『大学』の中にある「大学の道は明德を明らかにするにあり」である。これは、学生一人ひとりが学問研究を通して明德、すなわち人間が本来持っている曇りのない本性を磨き、前途有為な人間となるよう自己を確立することを意味している。

本学における教員養成の理念は、この建学の精神と立学の方針に基づき、専門職としての資質や能力、高度な専門的知識や技能を持った教員の育成に貢献することである。専門職としての資質・能力とは、高い人間関係能力、崇高な使命感と高い倫理意識、豊かな人間性であり、高度な専門的知識や技能とは、教科指導に関する高度な専門知識と幅広い教養、教育理論や教育哲学に裏付けられた柔軟な教育実践力である。これらを獲得して生涯成長していけるような教員を育成することを目指している。

(2) 教職課程の設置の趣旨

本学は、「明朗で真理と正義と勤労を愛し、責任を重んじ、品格高く、健全な精神を持ち、もって国家社会の発展に貢献し得る人材を養成すること」を目指し、実践的実務的人材の育成に努めてきた。現在では、近年の社会のニーズをふまえ、育成すべき人材像を「ゼロから立ち上げる」興動人としてさらに明確にしている。興動人とは本学の造語であり、既成概念にとらわれることなく、ゼロからものごとを考え、失敗を恐れず、他者と協働して「何か」を成し遂げることのできる人材を意味する。教職課程においても、この育成すべき人材像のもと、現実社会や経済活動の理解をめざして教職課程に関する科目や教育内容を編成している。

本学教職課程の特色としては、以下の2点が挙げられる。

1点目は、経済学・経営学に精通した教員の育成をめざしている点である。経済活動を幅広い視点から取り上げた数々の専門科目により、教科指導の基礎となる高度な専門知識を、より多面的にかつ実践的に修得することが可能となっている。

2点目は、学校教育に対する「よき理解者」の育成をめざしている点である。本学で企業経営や人材育成の理論や実践的手法を学ぶことにより、教職員・保護者・同窓生・教育行政・地域社会等と連携して学校教育を支援できる感性と指導力を身につけることが可能になる。

教育目的のもと、4年間を通してきめの細かい指導を行い、上記の特色を備えた感性豊かで指導力や人間関係能力の高い教員を養成するために、教職課程を設置している。

2. 経済学部経済学科の教員養成に対する理念、設置の趣旨

■ 中学一種（社会）・高校一種（地理歴史）・高校一種（公民）

本学の建学の精神は「和を以て貴しと為す」であり、平成6年（1994年）以来、現代ではますます多様化していく学生がそれぞれの個性と指向に応じて、バランスのとれた人格を形成していくよう、各学科は「Be Student - oriented（すべては学生のために）」を行動指針として、学生のためのカリキュラム改革を数次にわたり断行してきた。その成果として、平成17年（2005年）には、本学全体の人材育成目標として「ゼロから立ち上げる興動人」を掲げることとなった。

この人材育成目標に沿って、経済学部経済学科では、経済学の学習を通して、幅広い知識を獲得し、獲得した知識を利用して、現代社会を関連に生きて行けるような人材の育成を図ってきた。すなわち、経済学の知識を活用する実践的・実務的能力を通じて、経済の動きを読み取り、政策提言できる人材、及び中学・高校レベルで経済学の知識を普及させる人材である。

このような人材を育成するために、経済学部経済学科ではカリキュラムを入門科目群、基礎科目群、発展・応用科目群に分け、それぞれの学生が希望する進路に応じて計画的・段階的に学習を進めるよう指導している。

入門科目群は経済入門、経営入門、ファイナンス入門からなり、すべて必修科目としている。基礎科目群では財政学、金融論等、経済学各分野の基礎的・総論的な科目を配し、発展・応用科目群では日本経済史、西洋経済史、生活経済史、経済地理、地域経済論、社会保障論、労働経済学、ミクロ・マクロ経済学など、多くの専門科目を配置しており、これらの科目を履修することで、現代の経済・社会の仕組みや実態を理解することができる。

従って、これに並行して教職課程を履修した学生は、中学の「社会」、高校の「地理歴史」及び「公民」を教えるのに必要となる全人間的な人格と基礎的な学力及び専門的な識見を備える人材に育っていると考える。

3. 経営学部経営学科の教員養成に対する理念、設置の趣旨

■ 高校一種（商業）

経営学部経営学科においては、教育諸法令及び本学建学の理念にしたがい広く専門の学術を教授し、かつ実践的なビジネス教育を行うことを目的としている。マネジメント、アカウントティング、マーケティングの三分野に系統的に科目を配当している。またそれと同時に、三系統の科目を統合的に理解するために「ビジネスプランニングⅠ・Ⅱ」などの演習系科目群を多く配置している。こうした科目における演習を通じて、三系統の科目で得た知識を統合的かつ実践的に理解できるよう工夫している。

カリキュラムについては、高校一種（商業）の免許を取得するために、経営学部経営学科に配当される専門科目との関連性が深くなるように工夫している。具体的には、経営情報論、マーケティング論、管理会計論、経済入門など、マーケティング、ビジネス経済、会計及びビジネス情報の商業科の主要4分野を体系的に学ばせるための科目を配置している。これらの科目を履修することでビジネスの基本的なセンスと将来の実務に活かせるビジネスの基盤となる様々な理論を身につけると同時に、実践的教育で培った行動力や問題解決能力も活かして、高等学校での「商業」を教授するための知識と実践的能力が養えると考えている。

4. メディアビジネス学部ビジネス情報学科の教員養成に対する理念、設置の趣旨

■ 高校一種（情報）

メディアビジネス学部ビジネス情報学科では、従来、情報系学部・学科の中心に位置づけられてきた情報処理の専門領域を包含しながらも、ビジネスと先端情報技術に関する知識の習得の上に、ビジネスの現場で即戦力となる実務能力と高度な情報技術活用能力の育成を目指している。これは、今後の情報社会に対応できる実践的応力の養成に重点を置くものである。実務の実践、すなわち「ビジネス」の原理や実践技法の習得をしながら、段階的かつ発展的に、情報技術を駆使する最先端のビジネスまで学べる教育課程を編成している。

「情報技術」は継続的に進展しており、近年では、通信ネットワーク技術の基盤の上に、飛躍的な発展を遂げてきた。これにより、現在では、基礎的な情報処理能力のレベルも飛躍的に高度化し、さらに上位の「情報技術との融合的な活用と応用」へと情報教育の視点も移っている。ビジネス界では情報技術を融合的に活用・応用し、ビジネスのあらゆるプロセスを常に前進させていくことのできる人材の育成が求められており、これは情報教育の現場に対する要求をより高次のレベルへと引き上げている。メディアビジネス学部ビジネス情報学科ではこのような情報教育に関する要求に応じ、企業における情報研修担当者、及び学校教育者の育成に取り組んでいる。本学の教学の理念である「豊かな人間性を持つ実務的・実践的人材育成」にしたがい、学校教育者の養成については「①高度の専門教育を基盤とした教科に関する専門知識の育成、②教育現場において通用する授業実践力の育成、③生徒の多様な問題・課題に対して対応可能な指導力の育成、④『教師』としての職業モラルと職務遂行能力の育成、⑤情報技術の継続的進展に対する適応力と教育現場への応用力の育成」を目標としている。